

出版ダイジェスト

社団法人 出版ダイジェスト社 発行人 鈴木 肇
http://digest-pub.net
毎月3回(1日・11日・21日)発行 購読料1ヵ年=送料共1,575円(税込)
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-28-13 ラフィネお茶の水805 郵便振替 00190-3-95516
電話03-3292-2323 FAX03-3292-2325

現代に活かす伝統の力

農文協特集

朝日新聞社・第3回「明日への環境賞」受賞!

『日本農書全集』編集委員会

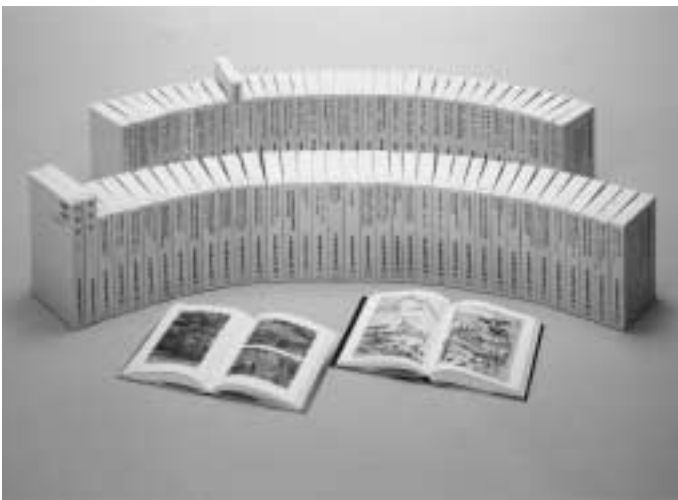
江戸期の農書集大成

『日本農書全集』(農山漁村文化協会刊)の圧倒的なボリュームに、だれもが目をみはる。72巻に及ぶ1巻、1冊の原稿は400字換算で約1千枚。しかも定価4,300円から7,500円で平均6千部、多い巻は1万2千部も売れたとすれば、出版状況と吹く風の立派なベストセラーだ。

内容は江戸時代に全国各地で記述された農書の原文と現代語訳。筆者の多くは在郷の庄屋をはじめ一般の人たちで、農法に始まり農具の解説、災害と復旧など幅広い題材が扱われている。その農書3,200点を郷土史を中心

に300人の研究者が訳出した。具体的な記述ゆえに読解は難航をきわめ、研究者は互いに自身の解説を添えて書きあわせ、金銭訳出にきつた。刊行は7月24日を要したとの間、飯沼一郎・京大名誉教授(84)、佐藤常雄・筑波大教授(63)ら編集委員会メンバーが農書の発掘と訳者の選定、監修で研究者を支えた。

膨大な労苦に読者は敏感に応じた。『食』の理想像を見いだした。山形県村山市のスイカつくりを呼ばれ



「人間の営みが『けがえのない地』を創り続けています。これ以上の環境悪化を食い止めるためには、人類の永続的な生存はほぼつかないという危機感から、家庭、地域、企業をさまざまなレベルで、自分たちの足元を見直し、持続的な社会づくりを目指す動きが広がっています。」「明日への環境賞」事務局

朝日新聞社では、創刊50周年に当たる1999年、つづいた環境保全の多様な試みを顕彰するため、この「明日への環境賞」を創設。地球温暖化防止から家庭のゴミ減らしまで幅広い分野を対象とし、「先見性」「モデル性」「継続性」に重きを置いた活動を選定する。

さらに、朝日農業賞、朝日森林文化賞の精神を引き継ぐ形で、賞の一端として、環境に配慮しながら美観を挙げていく農業生産と森林保全・緑化活動を対象とする農業特別賞と森林文化特別賞が設けられており、今回、「日本農書全集」編集委員会は、この農業特別賞を受賞した。

「日本農書全集」編集委員会の活動への講評と活動内容の各地に伝わる江戸時代の農書の復

環境保全の多様な試みを顕彰 朝日新聞社「明日への環境賞」

る門脇悦彦さん(49)は、軽トラックに積んで持ち歩き、畑や道端で読んで傍観を引いた。農業依存で対症療法に終始する農家の現状から抜け出す健全な発想を農書に教えられるという。農書がつけられた現地を訪ねて、地元の人たちから話を聞く読者のグループが結成されるなどの動きも起きている。

同協会編集担当理事の原田津さん(70)は「江戸の町方の歴史は文献や文学でよく知られているが、農村は意外に記録がない。農書はその欠落を補い、これがまとまって江戸の庶民の暮らしの全容がよく把握できた感もある」と話している。(朝日新聞2002年4月19日より転載)



賞杯「水の惑星」(左)。渋谷良治作

刻・現代語訳『日本農書全集』72巻を編集・刊行し、環境を汚さない当時の農法を紹介して、現代の暮らしに大きな示唆を与えた。

●活動の始めたきっかけ 農業の近代化がもたらした環境汚染が人の健康に影響を与え始めた事態を反省し、解決の手がかりを江戸時代の農書と暮らしに求め、75年に編集活動を開始した。77年に第1回配本を行い、01年に完結した。

●編集委員・執筆者 230人/販売部数398,000部

●主な活動内容 全国から農書を発掘し、研究者らを執筆者として組織し、全書を定期的に刊行した。一方で、執筆者の協力を得て約2,000人による「農書を読む会」を発足させ、岩手県から沖縄県まで10カ所の農書成立地での員外や学習、交流活動を行った。また、80年から90年まで、機関紙「農書を読む」を継続的に発行した。

第3回「明日への環境賞」受賞団体
滋賀県環境生活共同組合(滋賀県)
せつげん運動の推進など、琵琶湖の水を守る長年の取り組みの中から、菜の花を栽培しグリーン燃料を作る地域での資源循環モデル「菜の花プロジェクト」を確立した。



受賞五団体。「日本農書全集」編集委員会は右から2番目。

環境監視研究所(大阪府)
環境汚染に起因する市民のために水や食品、土壌、大気などを分析し、信頼できる結果を提供して、対策に貢献している。

吉野川シンボウム実行委員会(徳島県)
吉野川の可動堰建設計画に対し、広範な住民の参加を得て、河川環境を保全する活動を行っている。

◆森林文化特別賞
財団法人 トトロのふさと財団(埼玉県)
むかし懐かしい雑木林を、市民から集めた資金で保存するとともに、行政や地元自治会など協力して田畑や古い民家を残し、また、環境教育に努めている。